

九州稲作の生産性に関する若干の考察

坂 梨 鷹 元
(九州農業試験場)

SAKANASHI, T.

On the Productivity of Rice Cropping in Kyūshū District

九州の農業経営の発展はいかなる方向に向かうべきか?という問題に関して、特に、稲作についてその果すべき役割を再検討する必要があると思われる。

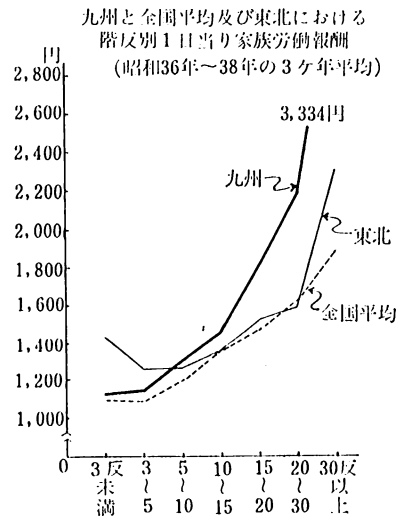
本報告では、農林省米生産費調査成績を利用し九州稲作の生産性を反当収量、反当所要労働時間、反当生産経費等の諸要因と関連させながら

- (1) 稲作の作付面積狭別階層間の差異をみれば、全国平均あるいは東北における傾向に対してちがった傾向を示すかどうか?
- (2) (1)の考察の結果、九州においては作付面積が広い階層では第1図にみられるごとく、著しく生産性(1日当り家族労働報酬)が高くなっていることがわかったが、この傾向は北九州と南九州とにおいて同じようにあらわれるものかどうか?
- (3) さきに九州農業研究第25号.317において報告したとおり、平坦水田地帯の多い佐賀県においては1日当り家族労働報酬が約1,500円(昭和33~35年度3カ年平均)に達するのに、山間水田地帯の多い福岡県においては約1,080円で山間水田地帯においては平坦水田地帯にくらべて著しく生産性が低いことが察しられたので、農林統計調査における佐賀農業地域と筑後農業地域の中で平坦水田部落に属する稲作農家群と山間水田部落に属する稲作農家群とに区分して、比較すれば、その差がどのくらいの額に及ぶか?

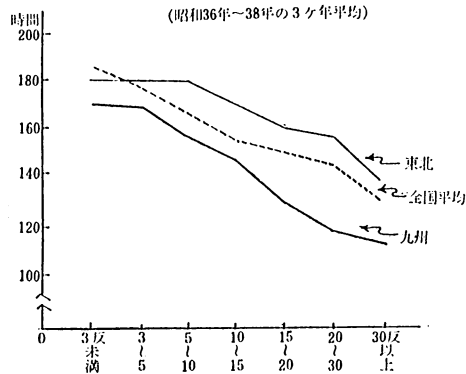
を考察した結果を報告する。

(1)の問題については、既に(2)の設問においてふれたとおり、九州では東北における以上に稲作の生産規模を拡大することの有利性がはつきりあらわれているが、

- 1) 反収についてみると、九州は全国平均、東北にくらべて低い、ただし、九州では上層と下層の差が大きい。
- 2) しかし、反当生産経費についてみると、九州は東北に較べて上層ほど著しく節減されている。2~3町の階層では九州は東北より約4,500円も少ない。
- 3) 反当生産経費の中、防除費だけは九州は東北より多くかかっているが、その他の費目についてはすべて少ない。
- 4) 次に、反当所要労働時間についてみると、第2図に示すごとく、1町以上の階層では九州は東北にくらべて20~30時間も少ない。



第2図 九州と全国平均及び東北における
階層別、反当投下労働時間



以上のように、作付面積規模が広くなるにつれて、九州では反当り労働時間、生産経費が著しく節減されているので、反収は低い、生産性は逆に東北よりも高くなっていることがわかった。

(2)の問題については、(1)に記したような傾向が、南九州の上層に強くあらわれていることがわかったが、これは今後もつと掘り下げて研究してみる必要がある。

(3)の問題については、山間部では平坦部に比べて1日当り家族労働報酬が約1,000円も低いことがわかった。なお、詳細については、この研究成果について九州農業試験場研究資料第36号(1966.2)「九州稲作1日当り家族労働報酬の地域性と階層性」を参照されたい。